



新しい「伝統」が生まれる

校長 小木曾敏樹

感動の体育大会から、一週間が経ちます。朝の練習でいっぱいだったグラウンドに生徒の姿はなく、その時間3年生の教室では学習会が開かれています。応援歌の大きな声が響いていた朝の会の教室からは、今は素敵な合唱が聞こえてきます。

あの日、生徒たちが得たものは何だったのでしょうか。

あの感動によって、何が変わっていくのでしょうか。

目に見えて何かが大きく変わることはないかもしれませんが、確実に心の中で何かを得て、何かが変わっていくはずです。

その一つは、自分の想いを伝えることの大切さです。あの日、チームリーダーたち、そして、各クラスのリーダーたちは、涙を流し、声を詰まらせながらも、自分の想いを伝えようとした。その姿、その想いに共感し、チームは、クラスは想いを一つにすることができたはず。心を開いて自分を語ること、それはとても勇気がいることです。しかし、勇気を出して語ることで得られた絆や信頼を、生徒たちは実感したはず。

その一つは、カッコウ良さということです。少しパンツを下げてみる、まゆを細くしてみる、さらには髪を染めてみる、カラーコンタクトを入れてみる、ピアスをしてみる…。見かけだけカッコウを付けている人よりも、人前で自分を語り涙する人の方がカッコウいいということ、みんなが感じたのではないのでしょうか。生徒会執行部や指導した教員への感謝の心をもちそれを形に表した。みんながまとまることや、みんなで想いを一つにすることのためにいろいろ考え努力した。そんな仲間の姿や先輩の姿をカッコウいいと思ったのではないだろうか。

そして、もう一つは、「伝統」ということ。これまで比較的あっさりとして過ぎていた体育大会が、感動の体育大会に変わった。これを経験した1・2年生が、来年、再来年に目指す体育大会は、今年の感動を上回る感動だろう。感動は努力した者にしか得られないこと、自分の想いを伝えなければ一つになれないこと、やさしい想いや感謝の想いをもてなければ得られないということを学んだ生徒たちは、必ず今年以上に想いを強くもって臨むはず。ここに小泉中の新しい「伝統」が生まれる。



「帰らないで!!」

全ての競技が終わるころ、保護者の方々が帰り支度を始め、閉会式の頃には随分と少なくなっていました。閉会式が終わると、残った方々も帰り始めました。その時、チームリーダーの1人の生徒が保護者の方々に向かって呼びかけた。「帰らないで!!」

しかし、その言葉は片づけをする音にかき消されたのか保護者の方々には届かなかった。彼には、その後起こる感動の瞬間が分かっていた。だから思わず呼び止めたのだろう。自分達が努力し手に入れようとしている最高の瞬間を、最高の輝きを、多くの方に見てほしかったに違いない。

感動の瞬間は十数人の保護者の方が見守る中、5つのチームのそれぞれの場所で起きた。そして、誰も予想しなかった500人の大きな輪による500人の大合唱は、数人の保護者の方が見守る中、グラウンドに響き渡った。

私は、彼の「帰らないで!!」と言った切ない声が、耳から離れない。